

平成31年1月 定例記者会見（報告）

1 日 時 平成31年1月28日（月）午後1時～午後1時30分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>米澤新聞社、山形新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、読売新聞、NHK、山形テレビ、置賜日報デジタル、NCV

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 今年の抱負をお聞かせください。
- (2) 道路の不正請求防止について、その後、対策は進んでいますか。
- (3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

それでは、定刻となりましたので、平成31年1月の定例記者会見を始めさせていただきます。この度は、二つほど質問を頂戴しております。初めに市長からお答えさせていただきます。

○市長

よろしく申し上げます。まず、「今年の抱負をお聞かせください」という質問です。今年を与えられた任期最後の年ということになります。4年前に市民の皆様にお約束してきたことをしっかりと取り組んで参りましたが、まだ残されている部分もありますので、そういったことを検証しながらしっかりと取り組んでいかなければならない、このように思っております。

そして、今年には市制施行130周年を迎えます。また、鷹山公入部250年という節目の年でもあります。さらに、5月1日に新天皇即位による新元号になりますので、そういった意義というものをしっかりと捉え、今後、これからの地域づくりにどのようにその想いを活かしていくのかを考えながら、取り組んでいかなければならないと思っております。そういった中で本市の大きな事業である市立病院の改築も新年度から具体的に始まることになっており、市立病院と三友堂病院との医療連携、医療の拠点づくりも具体的に進んでいく年になると思っております。この件については大きな予算を伴う事業でありますので、住民の健康や命を守り、福祉の向上を図っていくという視点と同時に、地域の活性化にどう結びつけていくのか、ということについても

同時に取り組んでいかなければならないと思っております。

新年度4月1日からは置賜定住自立圏構想がスタートします。今、各分野において、それぞれ3市5町全体の課題を共有しながら、どのように共生ビジョンに取り組んでいくのかということについて、だいたいの方向性が見えてきているのではないかと思っております。この共生ビジョンを基にしまして、米沢がリーダーシップを発揮しながら、置賜全体の住民福祉の向上や地域の活性化にしっかりと取り組んでいかなければなりません。

置賜定住自立圏構想を推進していくうえで、重要な課題だと思っているのが、中心市米沢として、様々な分野で磨き上げをしていかなければならないということです。やはり米沢にそれだけの魅力が無いと、お互いに共生ビジョンを執行していくうえでも思うようにいかない部分も出てくるかもしれません。この磨き上げでは、それぞれ各分野においてブランド戦略を立ち上げておりますので、すべての分野でしっかりと取り組んでいただくというような対応をしていきたいと思っております。この米沢がまずしっかりと磨き上げをし、それが置賜、そして県全体に波及していくということも含めて、取り組んで参りたいと思っております。

こういったことを行うに当たりまして、何よりも重要な課題となってくるのは、如何に市民の皆様と想いを共有しながら、どのように参加をしていただくかということです。例えば、昨年から進めている「ようざん桜の杜構想」や、またブランド戦略も市民の皆様のご協力が無いと出来上がるものではないと思っておりますので、私がまず先頭になって、様々な面で磨き上げを行い、対応を進めていきたいと思っております。

このことによって地域の活性化が図られますし、何よりも「健康長寿日本一」ということにも繋がるのではないかと思います。そういったことがひとつの大きな引き金となっていき、その結果、米沢や置賜が持続可能なまちづくりになるように取り組んで参りたいと思っております。

1期4年の中で、なかなかできなかったことにつきましては、今後、具体的な施策にどのように反映していくのかということもありますが、とりあえず与えられた任期の中で、申しあげましたことにしっかりと取り組み、今年度の市政運営に努めて参りたいと考えております。

次に、「道路の不正請求防止について、その後、対策は進んでいますか」という質問についてです。この道路の不正請求の再発防止策につきましては、雪解け後に発生する道路の補修作業に向けて、現在、検討中ではありますが、資材納入数量を証明する「資材伝票の原本提出を義務付けする」ことを中心に考えているところであります。また、今後、行われる刑事事件の裁判公判において、明らかになってくる事柄もあると思われるので、その内容を踏まえながら、再発防止対策を固めていく必要もあると考えているところであります。

以上、二つの項目についてお答えさせていただきました。

○秘書広報課長

それでは、質疑がありましたら幹事社を中心によりしくお願いいたします。

○幹事社

はい。私から一つ確認です。二番目の質問についてですが、この件に関する記者会見で、担当部長や課長から説明があった時に、道路補修・修繕業者とそこに材料を納品する業者があり、その納品伝票を基に数字を確定してきたということで、我々とのやり取りの中で、ダブルチェックになっていなかったのではないかという話になりました。結局、伝票を見て金額を確定していたとのことでしたが、この原本の伝票というのは、アスファルトなり、素材を提供している業者の納品伝票の原本を確認することですか。

○市長

まず、素材を提供している部分と実際に補修をした業者があると思いますので、そこはしっかりとすり合わせをしなければならないと思っております。どちらか一方だけでも片手落ちになってしまいますので、しっかりと確認できるように検討をしているところであります。やはり、これもお互いの信頼関係が無いとできないことですので、今回の事件を契機にして、納入業者や補修工事者とも、もう一度信頼関係を作り上げていかなければならないのだろうと思っております。その手段として、今申し上げたようなことはしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

○記者

今の件で確認ですが、納入業者に関しても、補修業者に関しても、どちらも原本を提出してもらおう方針で動いているということで良いのでしょうか。

○市長

はい。現在、担当の方でそのような方針で詰めていると思っております。片手落ちになったものでは良くないですので、こういったことも記者の皆さんからご質問があったからしっかりと取り組んでくださいということは申し上げます。

○記者

原本から使用量は確認できると思うのですが、業者が量を判断して発注する訳ですので、その量が工事に必要な量と合っているのかという正当性はどのように確認するのでしょうか。

○市長

これから雪解けになってくると道路が傷んで穴が開いたりします。そこに立ち会って、「このくらいの量だろう」ということが分かれば一番良いと思うのですが、その量があまりにも多いと職員がどこまで対応しきれぬのかということもあります。やはり、今回の事案を契機として、より強い信頼関係をどう結んでいくかということしかないのだろうと思っております。一番良いのは一つ一つの補修工事に立ち会うことだと思うのですが、今の体制の中でこれが可能なのか、また、不可能な場合にはお話に出たようなことをどのように確認していくのかということになると思っております。この件についてもしっかりと検討をして参りたいと思っております。

○記者

細かい点で確認なのですが、原本の提出を義務付けるのは工事修理業者ですか。そ

れとも資材を納品する業者どちらでしょうか。

○市長

何度も申し上げておりますように、どちらか一方だけでは片手落ちになりますので、どのくらい工事業者に材料を卸したのか、そしてその分をどのくらい使用したのか、そこが一致していないと正確なところが出てこないと思いますので、現在、その点も検討しております。

○記者

それでは両者に提出を義務付けるということで良いのでしょうか。原本は一つしかないと思うのですが。

○市長

そうですね。今、原本と申し上げましたけれども、担当の方からは原本という言葉で私に来ております。

○記者

では、担当に確認すれば良いということですか。

○市長

はい。

○幹事社

その他、ご質問ある方いらっしゃいますでしょうか。

○記者

資材伝票の原本提出の義務付けは他の自治体に比べて珍しい対策だったりするのでしょうか。他の自治体でもそういったことは行われているのでしょうか。

○市長

私は深いところまで承知しておりませんが、二度とこのようなことが起こらないように対策をしていかなければならないと思っております。今後、どのように確認をしていくのかということについても、もう少し調査を行う必要があるのではないかと考えております。ただ、二度とこういったことはあってはならないと考えておりますので、これからも必要性があるようなら調査も行いたいと思っております。

○記者

いつまでに調査を行うのでしょうか。

○市長

担当の方で作業を進めておりますので、このようなことも含めて、詳しいことは担当までお聞きして頂きたいと思えます。

○幹事社

その他、如何でしょうか。

○記者

一つ目の項目に関して質問です。今年の抱負で、4年前に市民の皆様にお約束してきた点で、しっかり取り組んできたものもあるし、まだまだ残されたものもあるということでしたが、しっかり取り組んできたものと、まだ取り組めてないものを具体的

な例として教えてください。

○市長

公約で申し上げてきたことはほぼ取り組んできたと思っております。ただ、産業振興の公社か株式会社を立ち上げたいということは言うておりましたがまだ取り組めておりません。その部分について例えば、総合商社やブランド関係の企業も立ち上がったたりして、その辺との関連性を今後どう結びつけていくかということもあったりします。また、産業界との連携も課題となっております。例えば、山形大学有機材料システム事業創出センターと地域がどのように関わりを持っていくのかという点についても、まだまだ対応できておりません。そういった連携をどのように広めていくのか、そして地域のものづくりや付加価値の高いものづくりをどう進めていくかということも、今後の推移を見て行いたいと思います。

また、企業間連携も進んできていると思いますが、まだまだ課題もあると思っております。受発注関係などの全体を見ながら、中心となるようなものは産業公社的なものが良いのか、あるいは株式会社のものが良いのかということも含めて、まだ取り組めていない部分であります。商工会議所といった経済団体と連携を取っているのですが、正確な連携になっていないというのが、一つ遅れている理由だろうと思っております。

○記者

要約すると、産業振興策についてまだまだやりたいことがあるということですね。

○市長

そうです。ものづくりというのはいろいろな分野に関わって参ります。例えば、工業製品だけでなく、米沢には繊維産業もあります。これらの国内外への発信も含めて、どのように地域産業を活性化していくのか、その捉え方についてまだ完全に出来上がっていないというのが現状です。

○記者

分かりました。出来上がった部分として一番大きいのは何でしょうか。やはり市立病院の建て替えでしょうか。

○市長

病院の建て替えもそうでありますが、子育て支援における保育園の無料化や子ども達の医療費の拡大など、このような部分は大体取り組んできました。

○幹事社

その他の点も含めて何かありますでしょうか。

○記者

市制施行130周年ではどのようなものが目玉となってイベントを開催するのでしょうか。また、次の150周年、200周年に向けてどんな施策を打っていくのでしょうか。

○市長

先ほど申し上げたように、意義というものは何なのかということをしかりとみて、

今後の地域の活性化、あるいは持続可能な地域づくりのために、このようなイベントなどを契機としながら、どう対応していくのかということになります。

一番大きな事業としては、現在、東京にあります平田東助像を米沢に移設するということでもあります。その顕彰も含めて、市制施行130周年の記念式典は9月1日を予定しており、8月中に移設を完了し、8月31日に平田東助像の除幕式を行いたいと思っております。また、昨年整備させていただいた「ようざん桜の杜」に、宇宙神代桜を植樹することも一つの記念事業として取り組んでいきたいと思っております。さらにそんなに大きな事業はできないのかもしれませんが、講演を中心としたものも計画しております。まだ明確になっておりませんが、NHKラジオ体操の招致もできればと調整を進めています。

○幹事社

他に質問のある方はいらっしゃいますでしょうか。

○記者

道の駅米沢の開発を進める段階での話だったのですが、米沢商工会議所会頭から道の駅の近くにトラックヤードを建設してくれないかという話があったと思います。この辺はどうなっていますか。

○市長

山形県トラック協会置賜支部の武田支部長から話がありました。その話はあって、これは国土交通省の防災拠点を兼ねた計画があるということで、用地買収などもあると聞いております。大型トラックが何台も停まっていると一般の方々の駐車場を占領する形となり、良くないので、道の駅の隣にトラックヤードを建設したいとのことでした。これはトラック協会と国との関わり合いの中で進めるということはお聞きしておりましたので、支部長には協会としてどう取り組むか、そして米沢市としてどのような協力ができるのかがしっかりと固まった段階で推進するというお話はさせていただいておりました。

○記者

トラック協会からはまだ返答はありませんか。

○市長

はい。まだありません。

○幹事社

その他、ご質問のある方いらっしゃいますでしょうか。

○記者

2期目の選挙が今年の秋にある訳ですが、次回もやはり自分の任期は2期までだということを明確に打ち出して戦われるのですか。

○市長

戦い方はこれからどうなるかということですが、市民の皆様も2期8年ということは承知されているようです。私も自分で条例を作っている訳ですので、今申し上げたことも含めて、これから新しく手を付けた部分もありますので、そこをしっかりと取

り組んでいくにはこの4年間だけでは、なかなか厳しいものもあります。道筋をしつかりと付けるという意味でも2期目の選挙には取り組んでいきたいと思っております。2期8年ということはすでに市民の皆様には公約としてお知らせして、すでに条例化しております。2期8年ということをお願いしての選挙戦になると思います。

○幹事社

その他、よろしいでしょうか。

○秘書広報課長

ないようですので、これで平成31年1月の定例記者会見を終了いたします。